

「第9回 愛媛県勤労者定期観測調査」報告書

(2015年11月調査)

2016年3月22日

【はじめに】

一般社団法人愛媛県労働者福祉協議会では、愛媛県内勤労者の福祉を推進するための基礎資料を得ることを目的に、県内勤労者を対象にした景況調査を実施しています。当報告書では、2015年11月に実施しました「第9回調査」の結果を報告します。調査にご協力いただいた加盟団体・事業所、ご回答いただいた方々に厚くお礼申し上げます。

【調査概要】

- ①調査名称：愛媛県勤労者定期観測調査（愛媛県勤労者短観）
- ②調査対象：一般社団法人愛媛県労働者福祉協議会に登録する111団体・事業所の勤労者
- ③調査項目：勤労者の景況感、仕事の現状、暮らし向き等
- ④調査実施期間：年2回5月・11月、第9回調査2015年11月1日～11月30日
- ⑤回答数：第9回調査登録者数：474名、回答者数：363名、有効回答数：361
- ⑥調査方法：質問票によるアンケート調査（郵送調査法）

【主な調査結果概要・総括】

1. **業況** 県内勤労者からみた愛媛県内の業況は、前回調査に続いて改善（問1）。
2. **物価** 消費税率引き上げ以降の、県内勤労者の物価上昇感が弱まる（問2）。
3. **賃金** 賃金収入DIは上昇。特に製造業の上昇幅が大きい（問4）。
4. **仕事での不安・悩み** 「将来の収入」と「収入の少なさ」が依然トップ（問6）。
5. **暮らし向き**、**生活の満足感** 「暮らし向き」が改善、「生活の満足感」が大幅に改善（問10、11）。

1. **総括** 今回調査時（2015年11月）の勤労者からみた愛媛県内の業況は、前回調査時（同5月）ほどの勢いはないものの、引き続き改善傾向にあった。今回調査では、消費税率引き上げ以降の県内勤労者の物価上昇感がようやく落ち着いてきたのが確認できた。さらに、賃金収入について改善がみられ、特に製造業での改善が特徴的であった。

こうした状況から、全体としては、前回第8回の調査で当面の課題とされた「物価上昇を埋め合わせるだけの賃金収入の改善」が、県内企業において、一定程度実現されたものと推測できる。一方で、規模の違いによる格差、また全国と地場との格差の拡大もみられ、長期的な視点から、県内経済への楽観的な判断は要注意である。

第9回 愛媛県勤労者短観調査 回答者属性

アンケート回収数	363
アンケート有効回答数	361

性別	人	%
男性	260	72.0
女性	101	28.0

年齢構成	人	%
20歳代	39	10.8
30歳代	102	28.3
40歳代	110	30.5
50歳代	93	25.8
60歳以上	17	4.7

家族構成	人	%
1..あなた(①)	42	11.6
2..あなた/親(①④)	36	10.0
3..あなた/親/その他(兄弟)(①④⑤)	5	1.4
4..あなた/子ども(①③)	13	3.6
5..あなた/子ども/親(①③④)	3	0.8
6..夫婦(①②)	59	16.3
7..夫婦/子ども(①②③)	163	45.2
8..夫婦/親(①②④)	10	2.8
9..夫婦/子ども/親(①②③④)	25	6.9
10..その他(それ以外の組み合わせ)	5	1.4

居住地	人	%
東予	137	38.0
中予	171	47.4
南予	48	13.3
その他	5	1.4

勤務地	人	%
東予	140	38.8
中予	175	48.5
南予	45	12.5
その他	1	0.3

勤続年数	人	%
5年未満	38	10.5
5年以上15年未満	133	36.8
15年以上25年未満	84	23.3
25年以上	106	29.4

従業員数	人	%
9人以下	41	11.4
10~49人	41	11.4
50~99人	18	5.0
100~499人	96	26.6
500~999人	52	14.4
1000人以上	113	31.3

業種	人	%
民間製造業	133	36.8
民間非製造業	156	43.2
公務員	26	7.2
その他(医療、福祉団体等)	46	12.7

就業形態	人	%
正規	318	88.1
非正規	43	11.9

労働時間	人	%*
20時間未満	7	1.9
20~30時間未満	10	2.8
30~40時間未満	82	22.7
40時間	52	14.4
41~50時間未満	135	37.4
50~60時間未満	58	16.1
60時間以上	15	4.2
NA	2	0.6

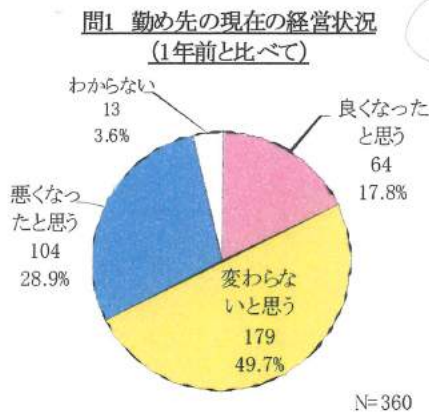
年収	人	%
200万円未満	25	6.9
200万円~400万円未満	110	30.5
400~600万円未満	133	36.8
600~800万円未満	71	19.7
800万円以上	17	4.7
NA	5	1.4

勤続年数	
平均(年)	17.6
中央値	16
最頻値	10

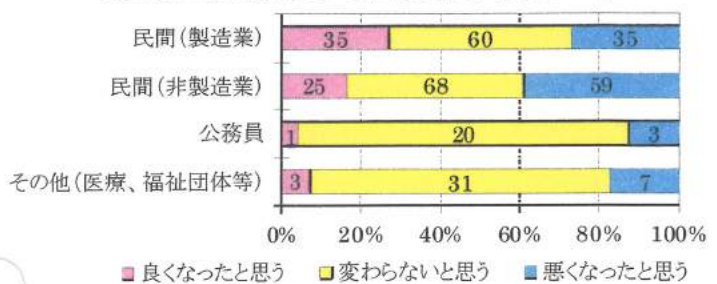
[調査結果]

1. 勤め先の経営状況

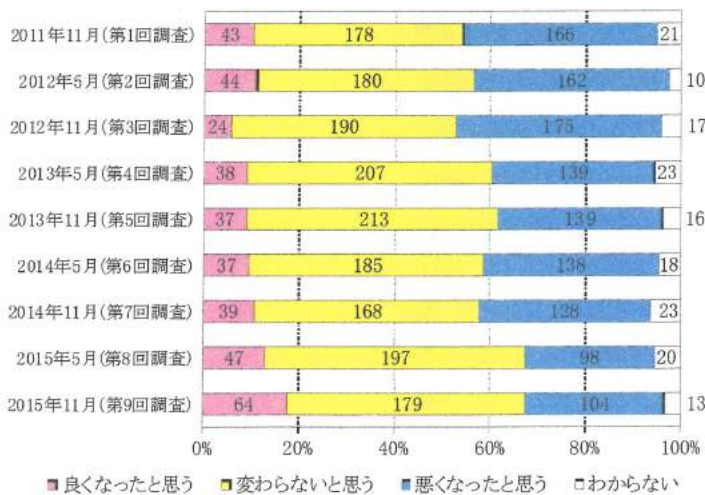
第9回調査では、「勤め先の経営状況」について「良くなったと思う」の割合が増加した。業種別では製造業が、規模別では規模が大きいところほど、勤め先の経営状況への見方が良好であった。全体では、経営状況DIはやや上昇した(3.0ポイント上昇)。勤労者からみた愛媛県内の業況は、前回調査に続いて改善した。



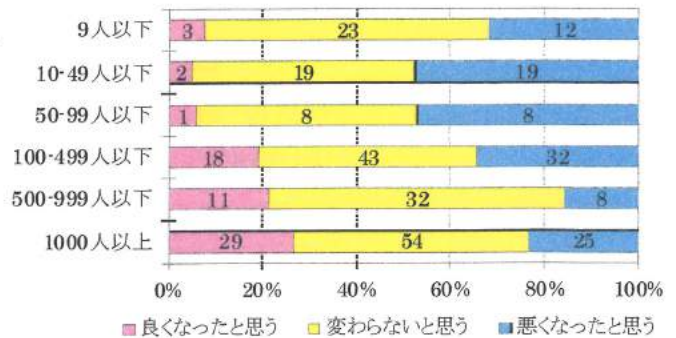
業種別にみた勤め先の経営状況(1年前と比べて)



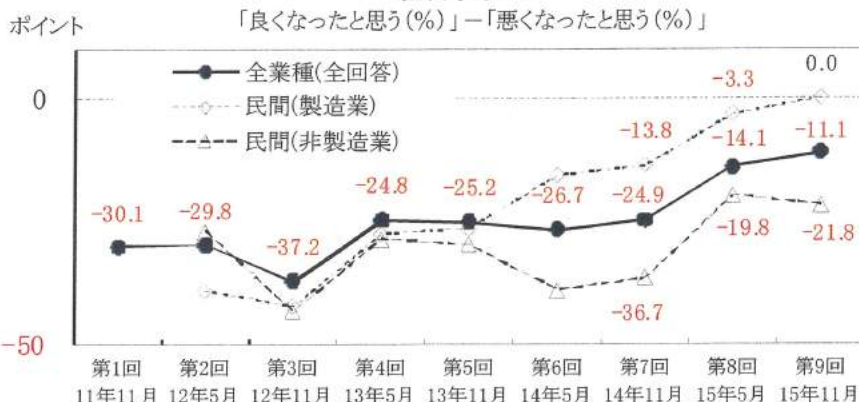
問1 勤め先の現在の経営状況(1年前と比べて)



従業員数別にみた勤め先の経営状況(1年前と比べて)



経営状況DI

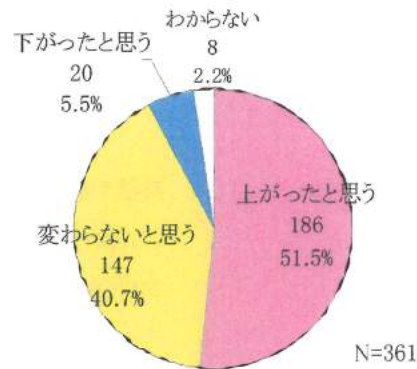


(注)全業種は、民間(製造業)、民間(非製造業)、公務員、その他(医療、福祉団体等)からなる。

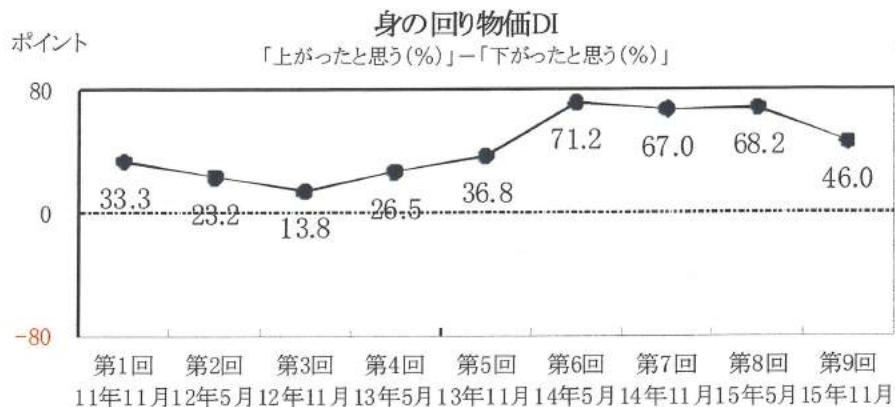
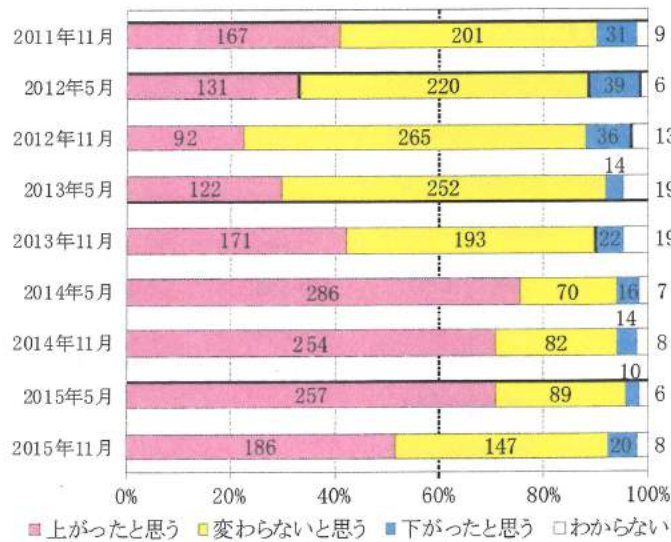
2. 身の回りの物価

1年前と比べて「身の回りの物価」については、「上がったと思う」が前回調査（2015年5月調査）から大幅に減少し、身の回り物価DIは大幅に下落した(-22.2ポイント下落)。県内勤労者の、消費税率引き上げ以降の物価上昇感は落ちつつある。

問2 日常生活に関連した商品やサービスの価格(1年前と比べて)



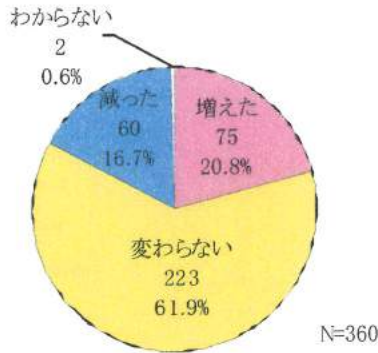
問2 日常生活に関連した商品やサービスの価格(1年前と比べて)



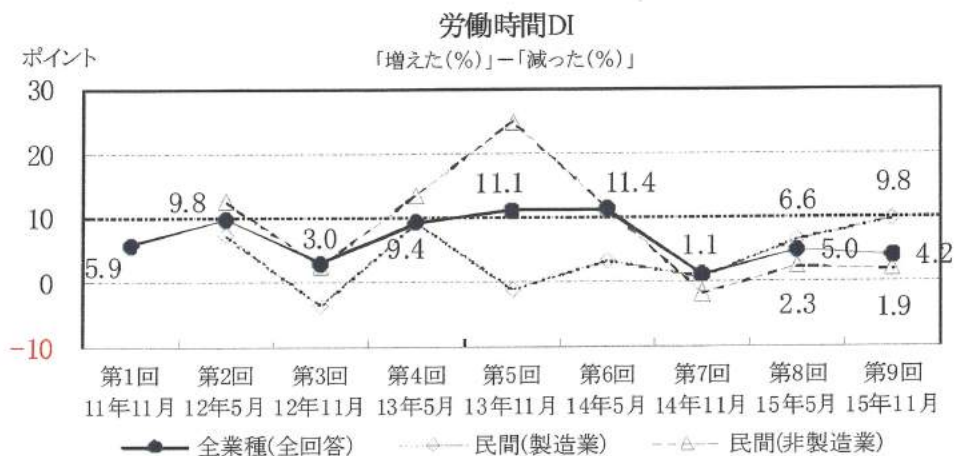
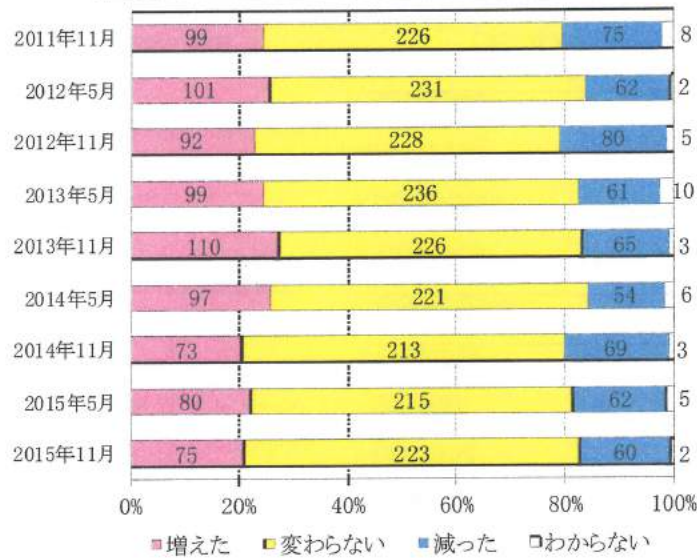
3. 実労働時間

最近の実労働時間については、「増えた」「減った」の割合がそれぞれ僅かに減少した。労働時間DIはほぼ横ばいであった。

問3 最近の実労働時間(残業・休日出勤を含む)
(1年前と比べて)



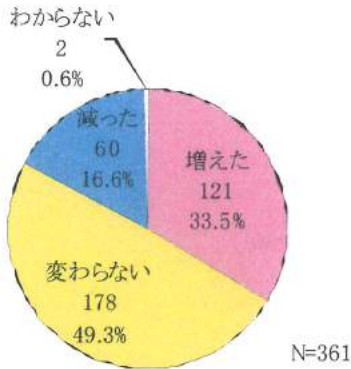
問3 最近の実労働時間
(全業種、残業・休日出勤を含む、1年前と比べて)



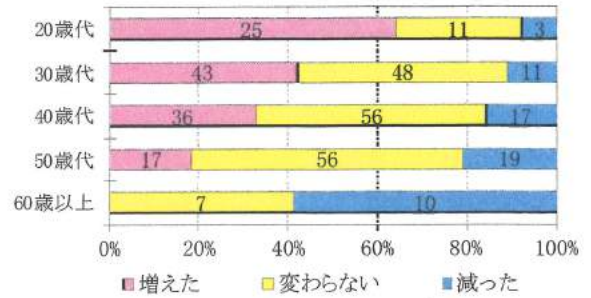
4. 賃金収入

「増えた」の割合が増加し、「減った」の割合が減少した。業種別では製造業で、規模別では規模が大きいところほど、良好な回答であった。また、これまでの調査でみられたように、年齢が低い層ほど「増えた」の割合が多かった。全業種でみた賃金収入DIは上昇した(6.6ポイント上昇)。特に製造業の上昇幅が大きかった(12.0ポイント上昇)。

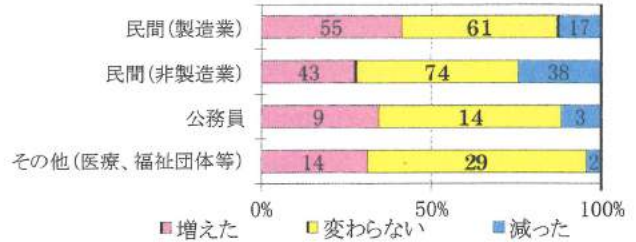
問4 あなたの賃金収入
(1年前と比べて)



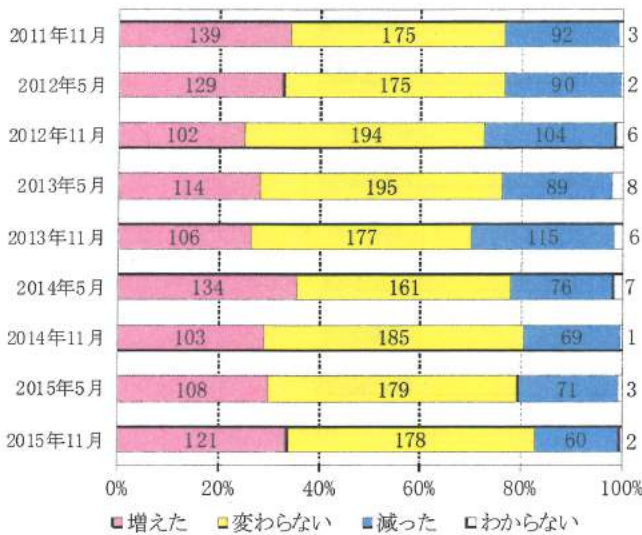
年齢別にみた賃金収入の変化(1年前と比べて)



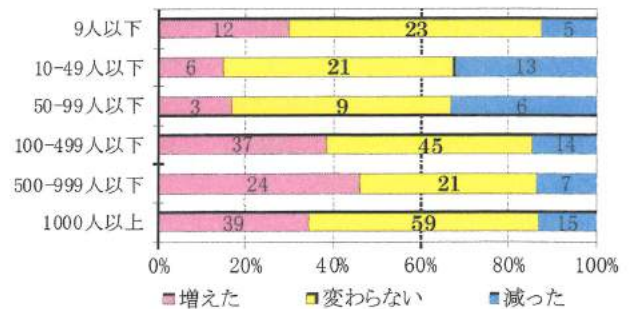
業種別にみた賃金収入の変化(1年前と比べて)



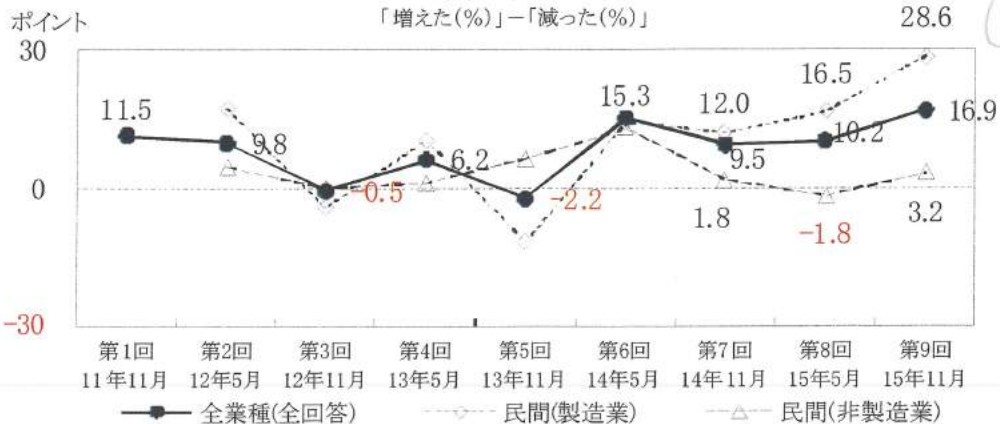
問4 あなたの賃金収入(1年前と比べて)



従業員数別にみた賃金収入の変化(1年前と比べて)



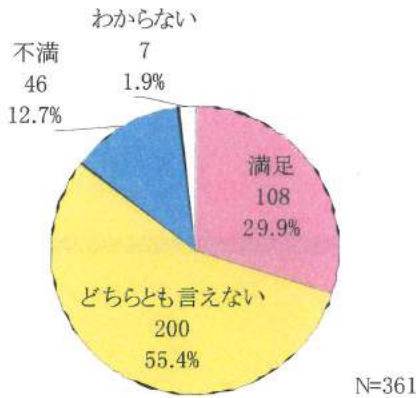
賃金収入DI



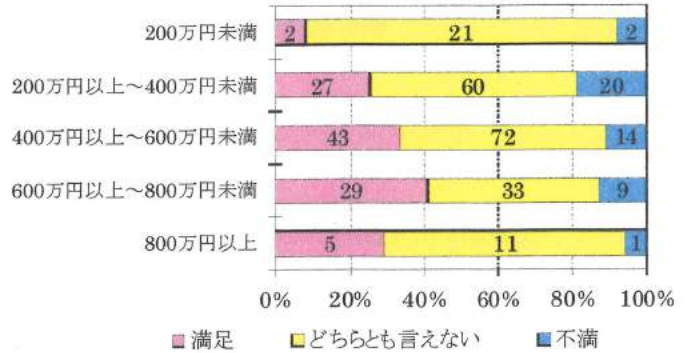
5. 勤め先の仕事の満足感

「不満」がやや減ったが、仕事満足DIはほぼ横ばいであった(1.9ポイント上昇)。「仕事の満足感」と「年収」「経営状況」「賃金収入の増減」に関連性がみられた。

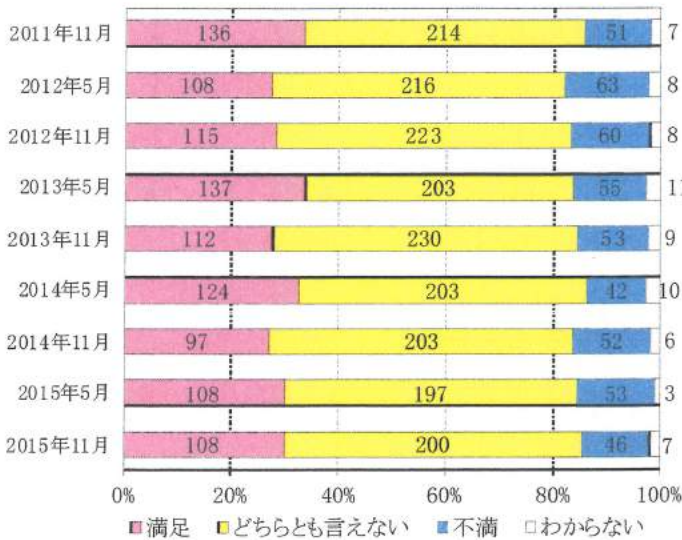
問5 仕事の満足感



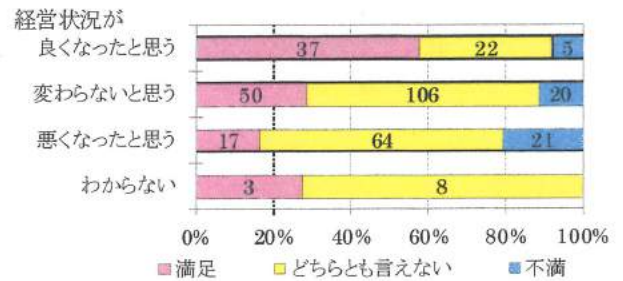
年収別にみた仕事の満足感



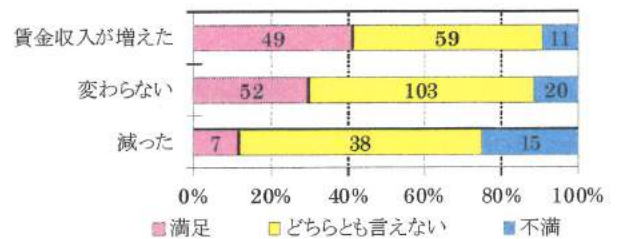
問5 仕事の満足感



経営状況別にみた仕事の満足感



賃金収入の増減別にみた仕事の満足感



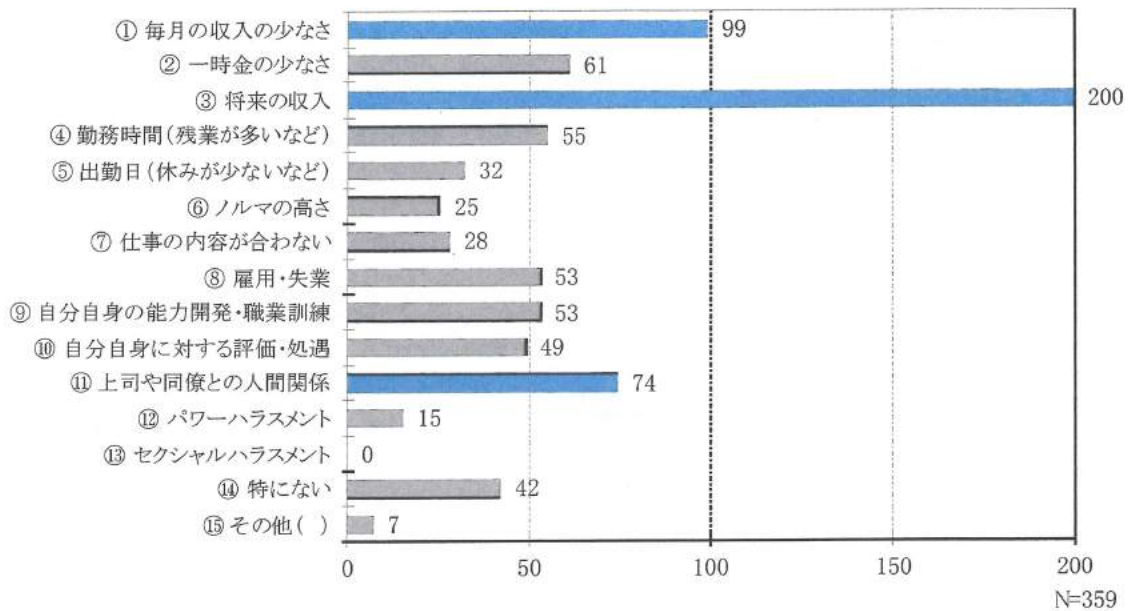
仕事満足DI



6. 仕事での不安・悩み

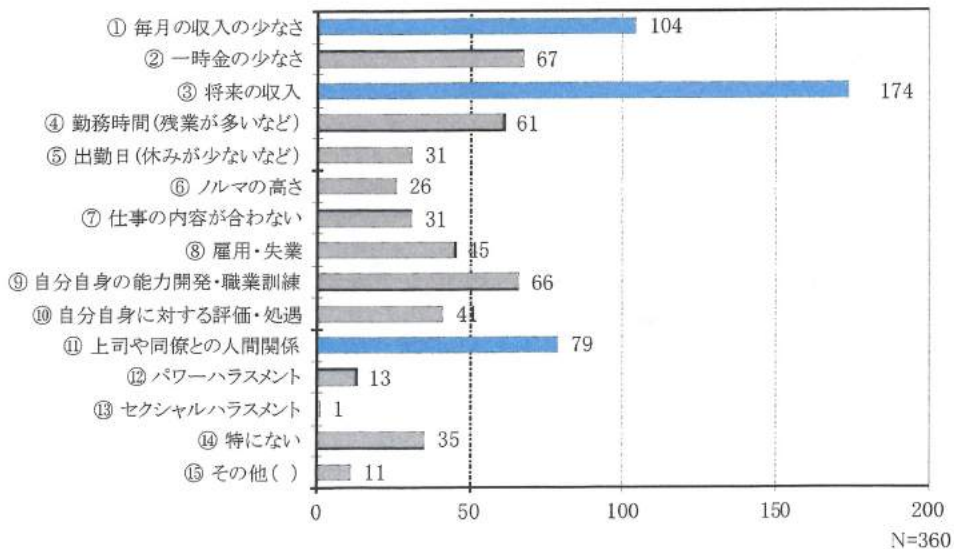
今回も最も多い回答は③「将来の収入」(回答数 200, 選択率 55.7%), 2番目は①「毎月の収入の少なさ」(同 99, 27.6%), 3番目は⑪「上司や同僚との人間関係」(同 74, 20.6%)であった。

問6 仕事に関連して、この半年間に特に不安に思ったこと・悩んだこと
(3つまで選択可)



参考 前回第8回調査(2015年5月)

問6 仕事に関連して、この半年間に特に不安に思ったこと・悩んだこと
(3つまで選択可)

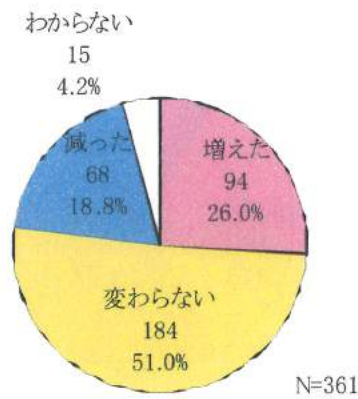


〈暮らし向きについて〉

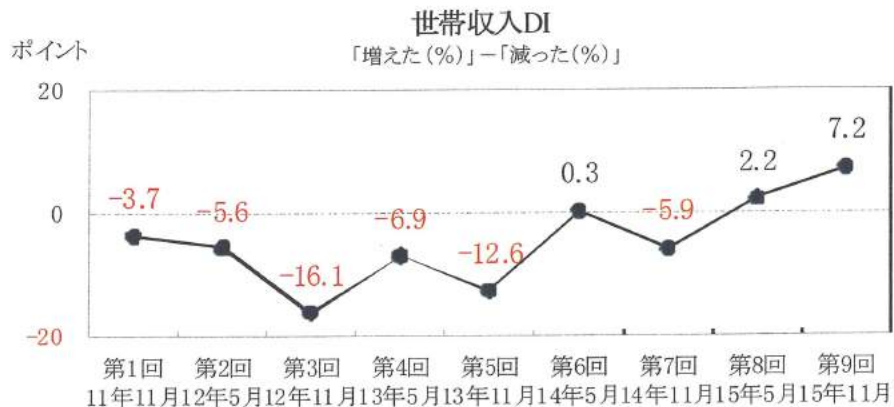
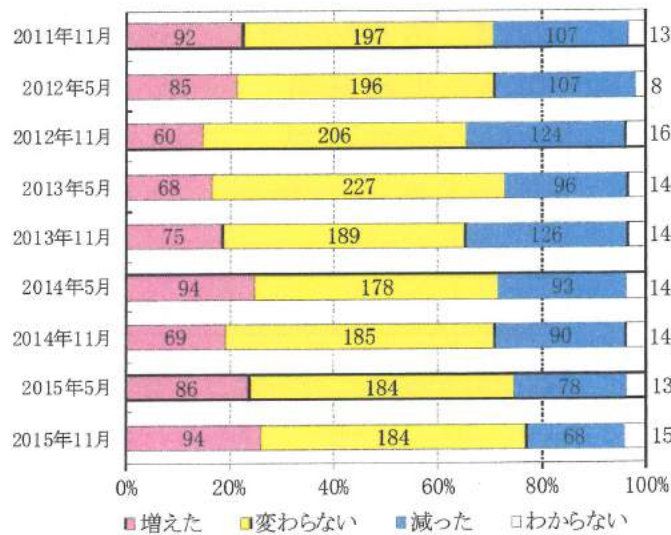
7. 世帯全体の収入

前回調査(2015年5月実施)と比べ、「増えた」の割合は増加し、「減った」の割合は減少した。世帯収入DIは上昇した(5.0ポイント上昇)。

問7 世帯全体の収入(1年前と比べて)



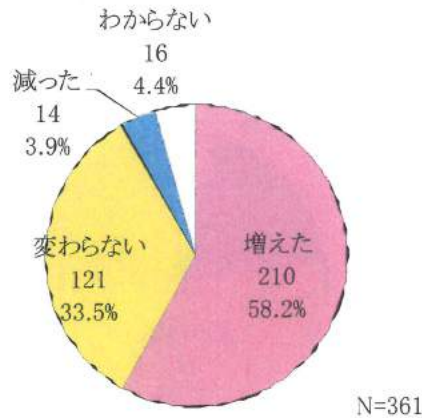
問7 世帯全体の収入(1年前と比べて)



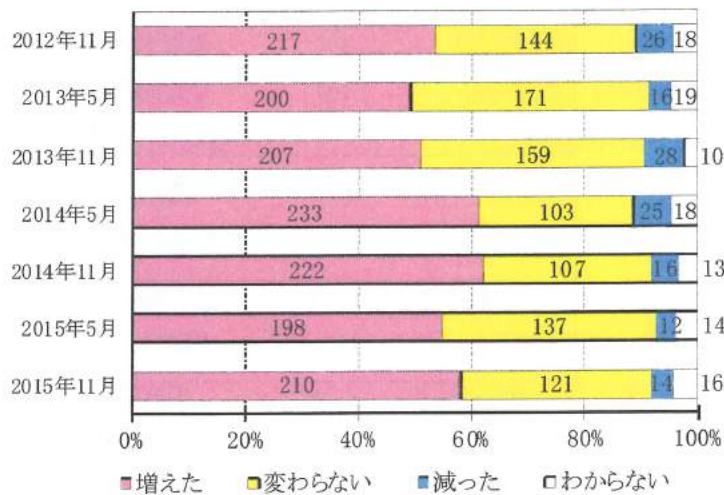
8. 世帯全体の支出

世帯全体の支出については、「増えた」の割合がやや増加した。世帯支出 DI は僅かに上昇した(2.8ポイント上昇)。

問8 世帯全体の支出(1年前と比べて)



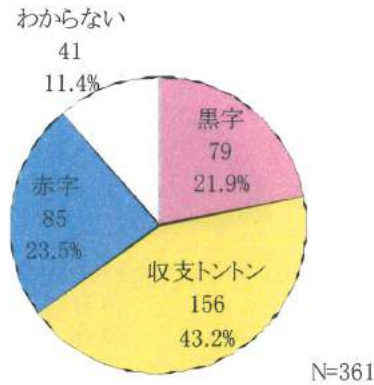
問8 世帯全体の支出(1年前と比べて)



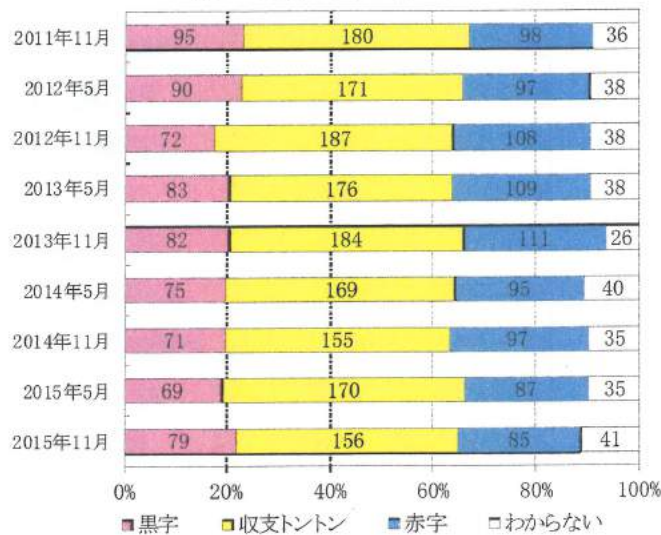
9. 世帯の年間収支

第3回調査（2012年11月）以降，世帯収支DIは小幅な変動が続いていたが，「黒字」の割合がやや増えたことで，僅かに世帯収支DIは上昇した（3.3ポイント）。

問9 1年間の世帯全体の収支



問9 1年間の世帯全体の収支



世帯収支DI

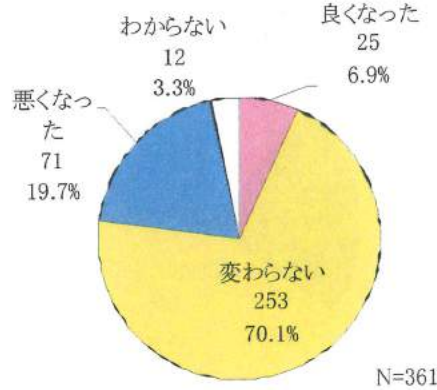
「黒字(%)」-「赤字(%)」



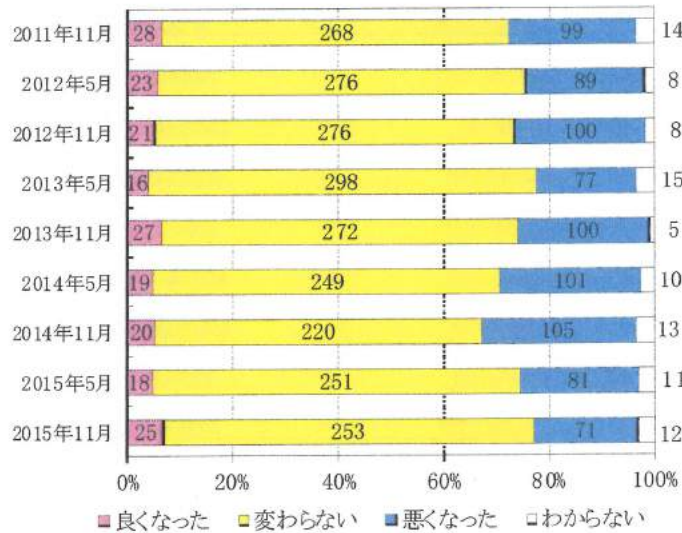
10. 世帯の暮らし向き

「悪くなった」の割合が「良くなった」よりも多いものの、前々回の調査時より、「悪くなった」の割合の減少が続いており、暮らし向きDIは上昇傾向にある(4.7ポイント上昇)。暮らし向きに改善傾向がみられる。

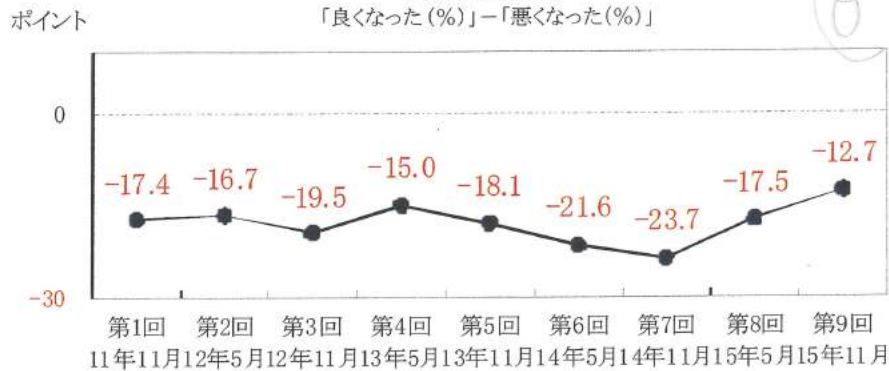
問10 世帯の暮らし向き(1年前と比べて)



問10 世帯の暮らし向き(1年前と比べて)

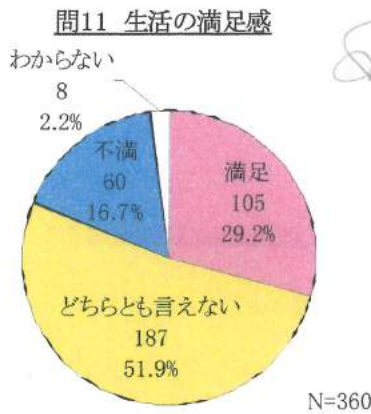


暮らし向きDI

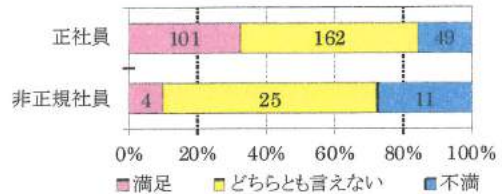


11. 生活の満足感

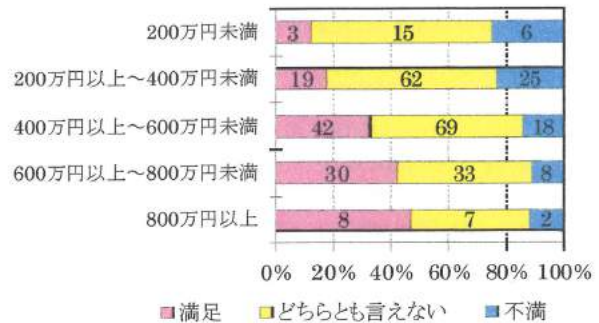
第5回調査（2013年11月調査）以降、生活満足DIは下落傾向にあったが、今回は大幅に上昇した（11.9ポイント上昇）。「生活の満足感」に変化が起きていると推測される。「生活の満足感」については、これまで同様に、就業形態、年収、賃金収入の増減、「仕事の満足感」「世帯の暮らし向き」との関連性がみられる。



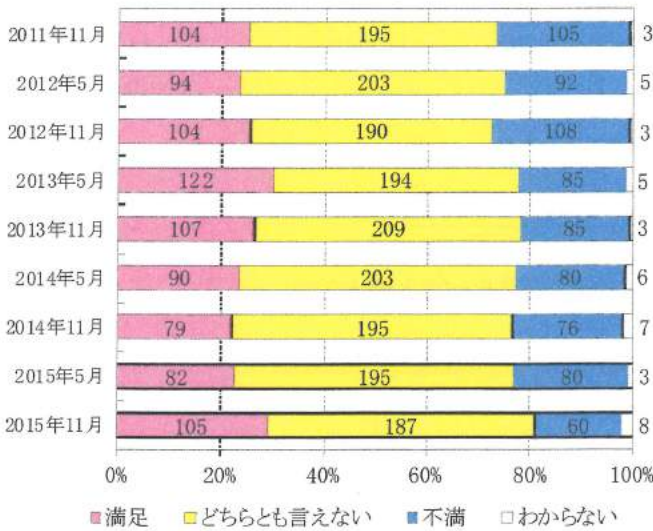
就業形態別にみた生活の満足感



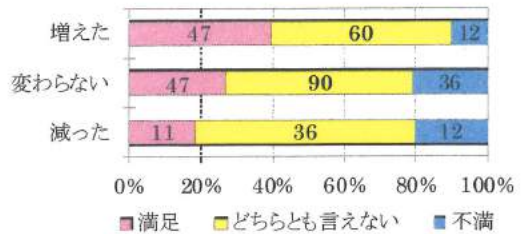
年収別にみた生活の満足感



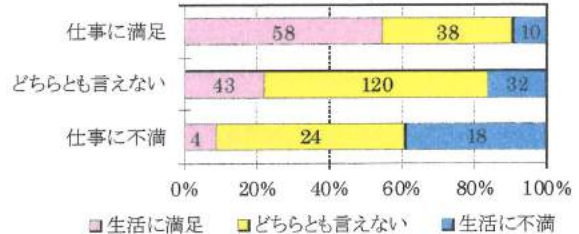
問11 生活の満足感



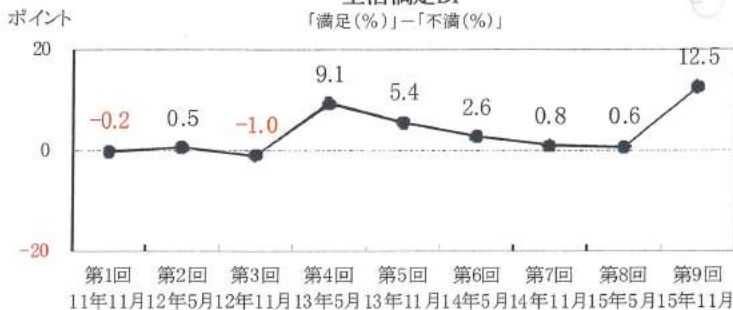
賃金収入の増減別にみた生活の満足感



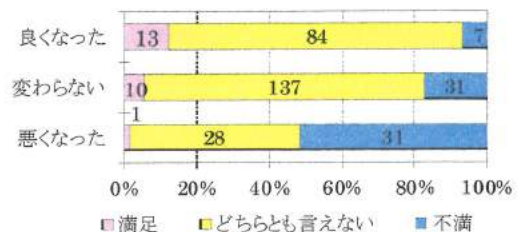
仕事の満足感と生活の満足感



生活満足DI
「満足(%)」-「不満(%)」



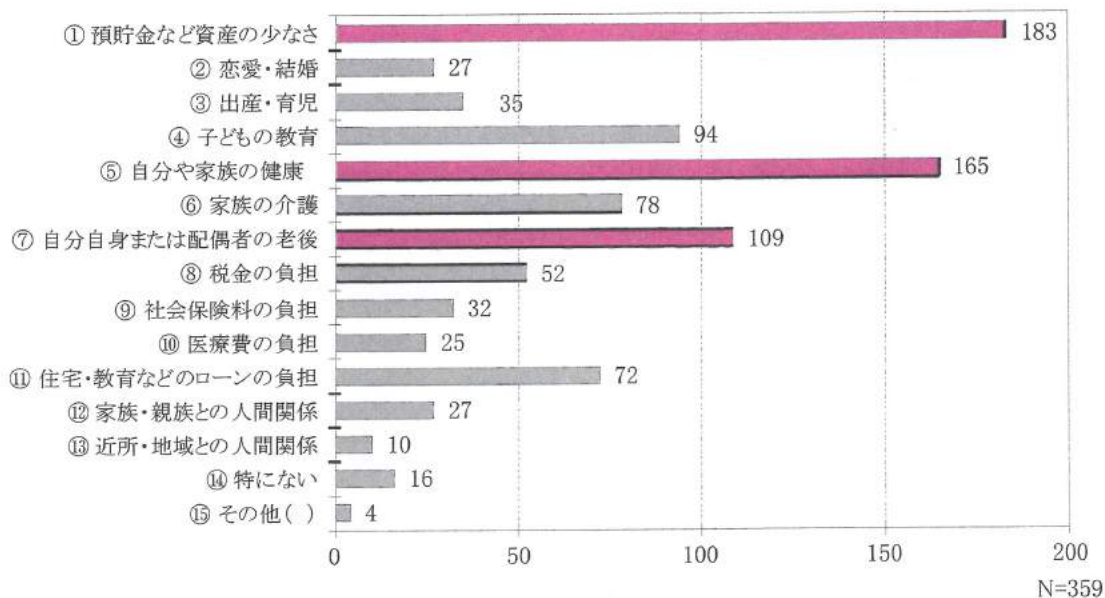
世帯の暮らし向きと生活の満足感



12. 暮らし向きに関連した不安・悩み

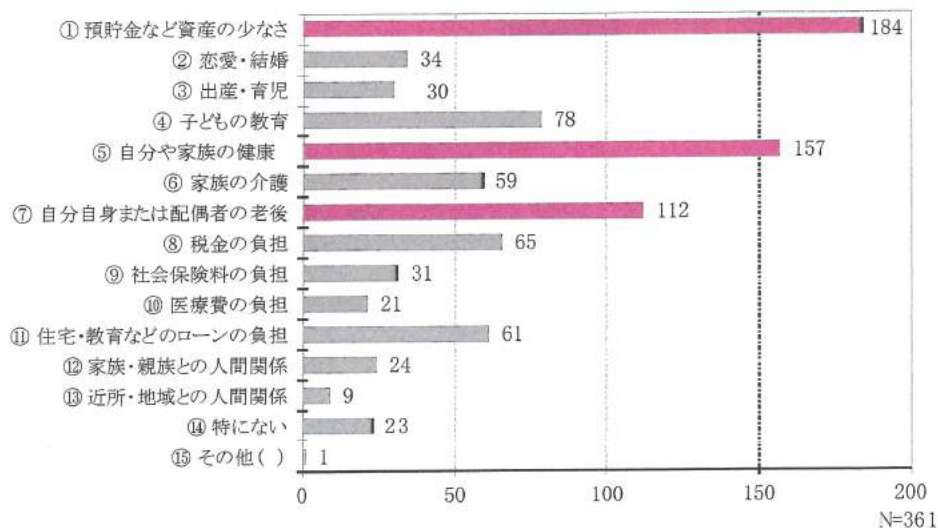
①「預貯金など資産の少なさ」(回答数 183, 選択率 51.0%), ⑤「自分や家族の健康」(165, 46.0%), ⑦「自分自身または配偶者の老後」(109, 30.4%)が第1回調査以降変わらず上位に入っている。

問12 暮らし向きに関連して、この半年間に特に不安に思ったこと・悩んだこと
(3つまで選択可)



参考 前回第8回調査 (2015年5月)

問12 暮らし向きに関連して、この半年間に特に不安に思ったこと・悩んだこと
(3つまで選択可)



(第9回定期調査の結果は以上です。)